



氷見市 長坂 ●



創刊号 VOL.1
2002年3月発行

会 報 誌

Toyama TANADA Network

会員数 303名 (H14.3.5現在)

とやま棚田ネットワーク

棚田を結ぶ保全の輪ができました。

先人たちが長い時間をかけて築いてきた棚田。お米をつくることはもちろん、自然やわたしたちの県土を守り、安らぎを与えてくれるという大切な役割をはたしています。しかし、山ぎわの棚田で米づくりをするには、たいへんな労力が必要です。農村では高齢化が進み、担い手不足などの事情から、年々耕作を放棄された棚田が増えていきます。

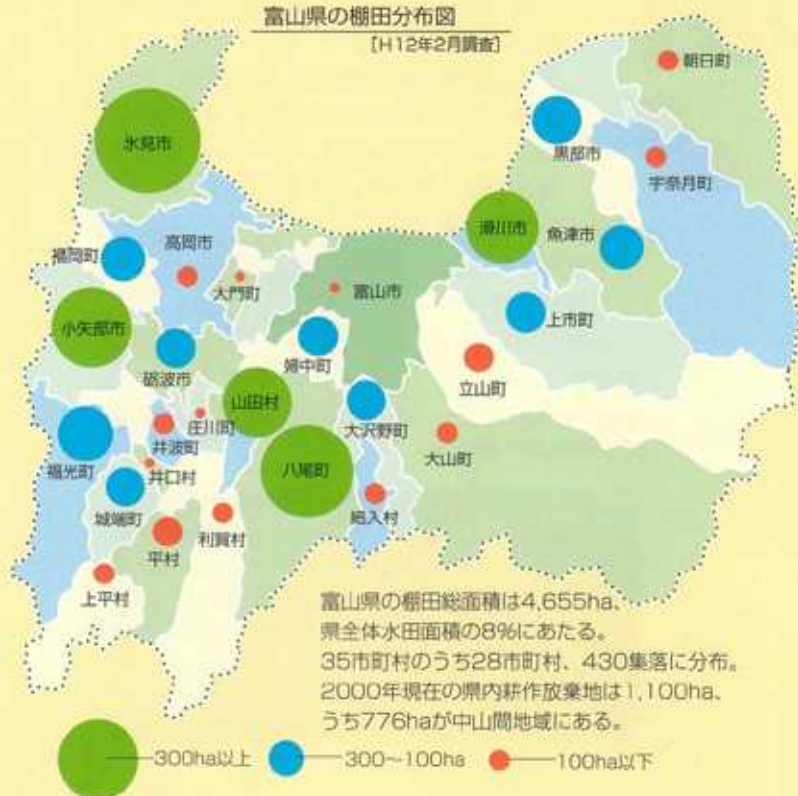
この危機に「みんなで棚田を守らんまいケ！」を合い言葉に、13年秋「とやま棚田ネットワーク」が発足し、広く会員を募っています。棚田での農作業体験をはじめ、会員どうしの交流や情報交換を通して、棚田の大切さをともに考え、保全の輪を広げていきます。



● 八尾町 三乗 棚田を守り隊

富山県の棚田分布図

[H12年2月調査]



「とやま棚田ネットワーク」へ期待します。

とやま棚田ネットワーク会長 遠藤和子

人と人の連帯意識がうすれてきている今日、棚田を守っていくには、かつて農村には「結い」という支え合いがあったように、現代の社会に対応した新たな関係づくりが求められます。そのためには、農村だけでなく都市住民を含めた広い連携が大切です。このネットワークによって子供たちを含めた棚田ファンが増え、多様な交流が生まれることを期待し、一緒に活動しましょう。

とやまの棚田を元気にする、活動の声が届きました。

美しいふるさとの風景として、守り伝えたい緑の棚田。
県内の各地で農村と都市住民が手をとりあい、保全活動がはじまっています。
平成14年度は8地区1グループの活動が予定されています。

小矢部市 みやじま 宮島

赤かぶづくりを通して 農村と都市の交流を

平成14年度に「棚田保全活動推進委員会（仮称）」を発足、耕作放棄田の復元に取り組みます。まずは農家から放棄された農地を借り受け、草刈り・耕起などの作業に取り組みます。復元した棚田は、赤かぶなどの特産品栽培の場として活用し、大歳の市や朝市などで販売します。都市住民と農村の交流の場をめざしながら、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

問合せ▶小矢部市農林課 TEL 0766-67-1760

14年度 予定

また訪れたい村へ 「棚田オーナー事業」

平成13年度の参加オーナーは55組。田植えと稲刈りには約240名のオーナーのほか国際交流員や地元高校生も参加、運営サイドからは「椿衆」を中心に集落が総出で活動をバックアップし、たいへんな賑わいとなりました。また13年度は新たな取り組みとして、山菜採り、かかしづくり、地元の伝統食である笹餅づくり、竹馬・竹とんぼ・貯金箱などの竹細工づくりなどの体験イベントも同時開催。オーナーと地元住民との交流を深めることができました。

平成14年度も農村体験を中心としたさまざまなイベントを企画していきます。

日程・問合せ▶
裏表紙をご覧ください。



棚田オーナー事業
中山間地における棚田保全対策として平成11年度にスタートした「棚田オーナー事業」。約30坪の区画を3万円で貸し出し、オーナーは田植え、草刈り、稲刈り、はさがけの体験ができます。収穫した玄米約40kgは、農産特産品と一緒に棚田オーナーへ配送します。地元農家を中心とした実践班「椿衆」が実際の管理・運営にあたっています。

山里とひとつになる 「さつまいも掘り体験」

体験農園として活用している棚田で、14年度は「さつまいも掘り」を実施します。農園を管理するのは、福光農業協同組合南盤谷支所青年部のみなさん。参加者には農家の方々とふれあい、「農」がもつ魅力を体感していただけると期待しています。農作業のあとのお楽しみは、南盤谷地区総合交流ターミナル施設「めく森の郷」の温泉浴。大地の上で汗する気持ち良さを味わう1日です。

問合せ▶福光町農林課 TEL 0763-52-1111

福光町 おまた 小又

14年度 予定

交流の輪を広げた 「みんなで農作業の日」

利賀村 あべつと 阿別当

平成13年度は阿別当地区において約2,700㎡の放棄田を復旧。まだ雪の残る春、地区のお年寄りに木を伐採してもらい、雪解けと同時に伐根作業。堆肥を入れ耕した畑で7月28日「みんなで農作業の日」を開催しました。集まったのは地区住民をはじめ、村内農家、農園オーナー、福野高校生、富山大学生、富山市内のラグビーチームなど、総勢およそ160名。参加者は額に汗して田に残る

石や根を拾い、ソバの種を播き、レーキやほうきでの覆土作業に取り組みました。地元住民と参加者たちの間にひと言ふた言と会話が生まれると、交流の輪は広がり、爽やかな空に笑い声がこだましました。作業のあとは地元婦人会が用意した「ほお葉おにぎり」や「清流そうめん」で昼食。作業の充実感をかみしめながら、棚田を語る会話もはずみしました。



利賀村では、高齢化と過疎による担い手不足で耕作放棄田が急激に増加。「みんなで農作業の日」は、年々増加する耕作放棄田を減らし、家族や集落が一丸となって農作業する機会を創り、棚田の保全について考えることを目的として、平成12年よりスタートしたイベントです。

みんなで農作業の日

「布施谷まつり」で 棚田生まれの山菜を



毎年恒例の「布施谷まつり」の目玉商品は地場産山菜の加工品。しかし地元で採れる山菜が年々減少し、出品できる加工品も少なくなりました。そこで13年度は地元住民の協力を得て耕作放棄田を復元、14年度には本格的に山菜やソバの栽培がはじまります。11月に開催した「布施谷まつり」では、予定より1時間も早く特産品が完売。14年度への期待がいっそうふくらみました。

問合せ▶黒部市農林水産課 TEL 0765-54-2111

黒部市 布施谷

13年度 報告

14年度 予定

朝日町 南保

自然体験で わくわくどきどきの夢づくり

14年度は休耕田や放棄田を活用して、子供たちとともにソバやアワを栽培。収穫した実は手づくり水車で製粉、かつてのようなソバ打ちやアワ餅づくりを復活させて、南保から元気印を発信します。

あわせて、地域資源を生かした手づくり体験や里山の自然体験で子供たちの感性をみがき、遊びながらわくわくするような夢づくりを棚田の数だけ広げていきます。

問合せ▶朝日町農林水産課
TEL 0765-83-1100



守る心を五感で学ぶ 「ふるさと学習」

上野町 種

子供たちに棚田の大切さを知ってもらうため、平成14年度は町内6つの小学校が交流しながら里山に親しむ「ふるさと学習」や、宿泊学習を通しての農林業体験を実施します。また、子供たちは地区住民と一緒に炭酸ガスを多く吸収する地球環境に優しい植物「ケナフ」の栽培に挑戦。畑作業やパルプづくり、紙すき体験などを通して、地域の文化にもふれあいます。

問合せ▶上野町農林課 TEL 076-472-1111

14年度 予定

八尾町 三乗



13年度 報告

14年度 予定

「みのり棚田の学校」 笑顔の卒業式

みのり地区が棚田百選に選ばれたことをきっかけに開校した「みのり棚田の学校」。第1回となる13年度は町内外から10組20人が参加しました。4月中旬に「みのり棚田の学校だより」（年5回）を発行、5月から8月までに田植え（手植え）、ホテル観賞、畦畔の草刈り、稲刈り（手刈り）の体験を通して交流を深めました。地区住民の協力により授業はスムーズに進み、参加者は笑顔で卒業を迎えました。

2年目となる14年度は、「農業を楽しくやろう。農業の楽しさをみんなに知らせよう」をテーマに、田植えや稲刈りのほか、おわら鑑賞なども実施。また、もっと深く農業に踏み込んでみたいという希望者向けに、特別の補習授業も企画しています。

中央農業高校 高校生のパワーで 「棚田を守り隊」

平成13年2月の「棚田シンポジウム」をきっかけに、中央農業高校の生徒たちが結成した「棚田を守り隊」。第1回の活動は7月24日。八尾町三乗地区の棚田約6ヘクタールの畦草を刈り上げました。生態系の保全をはじめ、水田が持つさまざまな機能を実体験を通して学んだことは大きく、環境保全型農業への意識が高まり、本校で取り組んでいる「米めかによる除草試験」にも熱が入りました。この取り組みを11月に開催された「とやま棚田フォーラム」で発表したところ、他の高校生の模範となったと大好評。今後は、高校生に限らず一般市民にも参加を呼びかけながら活動を続けていきます。「ザ！鉄腕！DASH!!」でおなじみTOKIOのメンバーにも声をかけています！

13年度 報告

14年度 予定

募集

平成14年度の参加者を募集します。詳しくは裏表紙をご覧ください。

とやま棚田ネットワーク 会員募集中

「とやま棚田ネットワーク」は棚田に興味をもつ人なら、誰でも会員になれる棚田の応援団。棚田をもっと知りたい、保全活動に参加したい、そんな仲間を募集しています。

会員になると

- ・会員証が交付されます。
- ・会報誌により、棚田に関する取り組みや催しの情報、参加募集の案内が受けられます。
- ・保全活動などへの参加は自由です。

会員になるには

原則高校生以上で、棚田のことをもっと知りたい方、棚田に関係している方ならどなたでも会員になれます。

お申込み・お問合せ

「とやま棚田ネットワーク」事務局
(社) 富山県農業公社設計管理課
氏名、住所、TEL、性別、年齢、職業を明記し、お申し込みください。

とやま棚田ネットワーク委員

- 会長/遠藤和子(作家)
副会長/広瀬慎一(富山県立大学教授)
委員/助重雄久(富山国際大学地域学部講師)
高木美奈子(奥自然解説員)
中陳志美子(主婦)
木和田勝(氷見市長坂区長)
北林茂(八尾町三乗堂農組合長)
長谷基六(利賀村産業振興課長)
前本保(黒部市産業部農林水産課長)
谷村憲二(奥農林水産部企画管理課長)
松井紀夫(富山県農業公社参事)

入会状況

平成13年11月29日の「とやま棚田フォーラム」より会員募集をスタート。3月5日現在、303名の方が棚田仲間になりました。



八尾町「みのり棚田の学校」 参加者募集

春・初秋の農作業体験と「おわら風の盆」観賞を中心に、都市と農村が交流する学校にあなたも参加してみませんか。

- ▶募集定員：30名
- ▶とき：5月5日(祝) 春の農作業体験
8月24日(土)~25日(日) 秋の農作業体験
- ▶実習費用：大人13,000円、小人6,000円
- ▶お申込み・お問合せ
みのり棚田の学校実行委員会(山西)
TEL 076-454-2954
八尾町農林課
TEL 076-454-3111(内線467)

氷見市長坂「棚田オーナー事業」 平成14年度予定

4年目を迎え、平成14年は約50組の棚田オーナーの皆さんとともに取り組みます。

田植え(5月下旬)、稲刈り、はさがけ(9月下旬)のほか、山菜採り、かかしづくり、竹細工などのイベントを予定しています。

- ▶お問合せ
氷見市農政課
TEL 0766-74-8086



お便り募集

会報誌の感想、棚田に関する情報・意見など、あなたの声をお寄せください。また、会報誌に掲載する棚田写真を募集中です。郵便番号・住所・氏名・生年月日・電話番号・会員番号をお書き添えのうえ、郵送にてお送りください。

事務局から

とやま棚田ネットワーク会報誌の創刊号をようやく発行することができました。大変遅くなったことをお詫びいたします。今後は、年2回の発行を予定しています。

2002年3月15日発行



とやま棚田ネットワーク事務局

富山県農業公社設計管理課内
〒930-0096 富山市舟橋北町4-19
TEL 076-441-7398 FAX 076-444-3851
ホームページ <http://www8.ocn.ne.jp/~tnoko/>